

平成 23 年 6 月 20 日



しほり  
森づくり集団「**葉**」事務局通信 Vol.33号

【今月のお知らせ】【今月の活動報告】【次回の活動予定】  
【お知らせ/募集】【編集後記】



ご苦労様です。

2011.06.5 撮影

【今月のお知らせ】

## 平成23年度 オオムラサキ放蝶会

日時:平成 23 年 7 月 9 日(土)

場所:処分場

終了後皆さんに手入れして頂いた森林内の散策路などを利用し、我々だけで観察会を実施します。

参加ご希望されます方は、次回の森作り作業日(7/3)までに吉田までご連絡下さい。

【放蝶会の概要】

放蝶会 午前 10:00 ~ 12:00

午後 場内の散策

希望があれば、ツルツル温泉に寄ってから帰宅するコースも用意します。

集合場所は、電車利用の方は、東武東上線若葉駅(東口)に 7:30 に集合

参加希望者の人数により、配車を考えたいと思いますのでお車にて参加可能な方は参加表明時にご連絡ください。

前回伐採等作業をおこなった場所で観察会を行いたいと思います。  
経費は、車を出して頂く方があった場合にその経費を搭乗者で割り勘でお願いします。その他経費は掛かりません。  
放蝶会には、多分マスコミの方も来られると思います。

担当 吉田

## 【今月の活動報告】

6月5日(日)10:00~

三芳フィールド

参加者 / 小林、豊島、土金、森、吉田ひ、渡部、緑川、北村み、田中、吉田あ  
(敬称略)

活動担当者 / 武田

当日は下刈りと除伐作業を行いました。  
下刈り作業を始める前に、昨年に引き続き外来植物のオオブタクサ、ブタクサ、セイタカアワダチソウの駆除を行いました。  
昨年はオオブタクサなど背丈が大きく、いたるところに生えていましたが、昨年の駆除作業が効果があったようで、大きくならず、量も少なくなっていました。



下刈りは、日当たりが良いため雑草が繁茂している側道や林縁を中心に行った後、林内の下刈りに移りました。

午後は全員でエゴノキ等の除伐と伐った木の後処理を行った後、1)田中さんを中心に菜のブログについて打ち合わせるGrと、2)道具置き場周辺の下刈りGr(土金、緑川、武田)に分かれました。

道具置き場周辺も日当たりが良いためびっしり草が生えていましたが約1時間の作業できれいになりました。



担当 武田

## 【次回の活動予定】

7月3日(日)

下富第3フィールド

徐伐・下刈り作業を行います。

作業参加希望者はメンバーメールにてお知らせください。

活動担当 武田・土金

7月25日(月)～29日(金)

「遠野まごころネット」に申請を行い、三陸災害ボランティアに我孫子山の会と一緒に、森づくり集団「**菜**」として参加します。

今回は8月13～20日頃を予定しています。

担当 豊島

## 【お知らせ/募集】

### 参加者募集のお知らせ

森づくり集団「**菜**」は、毎月第1週日曜日に所沢下富のくぬぎ山及び三芳町で里山の手入れをおこなっています。

会員のほとんどが森林インストラクターの資格を取得し、初めての方には危険防止のための注意事項、作業方法を丁寧にご指導いたします。

私たちは10年以上にわたり目的に応じた森の手入れをして、経過を観察し新しい発見、新しい取り組みを楽しんでいます。

また、植物の観察会、子供のための観察会、森の手入れ研修会などの企画計画していますので、興味のある方はぜひご参加下さい。

連絡先は下記事務局まで

## 【編集後記】

梅雨前線の影響で九州、四国など太平洋側は雨模様が続いています。

6月の雑木林の作業は下刈、除伐がなんとかできました。これからこの時期は水分補給、虫、蚊との戦いが始まります。四季折々気持ちの良い時ばかりではありません。

7月、8月夏の太陽から雑木林に逃れ涼風を求めてもこの時期ならではの楽しみ(?)苦しみがあります。でもやはり出かけていくのはまだまだ発見していないものに出会いたいから、そして夏の流れる汗とご褒美の秋のすず風…

7月の活動日には夏のグッズをお忘れなく！

緑川

# 植物の葉

## 種子(受粉) しゅし(じゅふん)

動くことができない植物は、様々な戦略で花粉を運び受粉を行い子孫を残します。

### (花粉媒介のいろいろ)

#### 非生物媒介

風媒・・・風によって送粉・受粉が行われるもの。(風媒花)

水媒・・・水の動き・力によって送粉・受粉が行われるもの。(水媒花)

#### 動物媒介

虫媒・・・昆虫によって送粉・受粉が行われるもの。(虫媒花)

鳥媒・・・鳥によって送粉・受粉が行われるもの。(鳥媒花)

コウモリ媒・・・サボテンやバナナなどは植食性のコウモリによって送粉・受粉が行われる。(コウモリ媒花)

カタツムリ媒・・・ネコノメソウ属(ユキノシタ科)やオモト(スズラン科)はカタツムリやナメクジによって送粉・受粉が行われる。(カタツムリ媒花)

### (受粉のいろいろ)

受粉には 1 つの花の中で受粉を行う自家受粉と他の花から花粉を受けることで受粉する他家受粉に分けられる。

自家受粉の有利な点は送粉の確実性がすごく高いこと、そのために花の数が少なくてすみ経済的です。

不利な点は、遺伝的組み合わせの多様性が低下すること、つまりこれは種の存続の危機を招くことになります。

閉鎖花: 花冠が発達しないか開かずに終わりその中で受粉する。

スマレ属(スマレ科)、ツリフネソウ(ツリフネソウ科)、  
ホトケノザ(シソ科)、センボンヤリ(キク科)

他家受粉の有利な点は、遺伝的組み合わせのバリエーションが広がる、これは種の適応度の増大につながります。

不利な点は送粉の確実性が低いこと、そのために花の数を増やし、さらに媒介者の好むものをいつも余るほど用意しておかなくてはならないこと、なんとも不経済な話です。

植物はこの自家受粉か他家受粉かどちらかに決まっているわけではありません、そのため自家受粉をできるだけ避けるため、いろいろな仕組みをもっています。

自家不和合成: 自家受粉がおきたとき、受精できないように生理的に妨げられる仕組み。

雌雄異熟:

雌しべ先熟・・・両性花をつけ、雌しべが先に成熟し終了する頃、雄しべが成熟する。キキョウ(キキョウ科)

雄しべ先熟・・・両性花をつけ、雄しべが先に成熟し終了する頃、雌しべが成熟する。フデリンドウ(リンドウ科)

雌雄異花: 同じ株に雄花と雌花がつく(雌雄同株)と、雄花をつける株と雌花をつける株が異なる(雌雄異株)がある。



三芳フィールド 撮影 2011.6.5

**サトキマダラヒカゲ** ジャノメチョウ科  
*Neope goschkevitschii*

春型 5～6月

夏型 7～8月

雑木林に住みクヌギなどの樹液を吸う

食草 ササ科ネザサなど

山地性にはヤマキマダラヒカゲが住む  
ミズナラなどの樹液を吸う

森づくり集団「<sup>しほり</sup>菜」事務局

アドレス [info@mori-shiori.sakura.ne.jp](mailto:info@mori-shiori.sakura.ne.jp)

ホームページ <http://mori-shiori.sakura.ne.jp/>

事務局長 緑川睦子